

長い夏休みが明けて、賑やかな園内に戻るはずだったのですが、緊急事態宣言の発出、延長により、現在も登園自粛期間が続いています。(保育を希望される方は、登園しています。)一日でも早く事態が収束し、皆さんの笑顔に会える日を楽しみにしながら、園内の環境を整えたり、楽しい遊びの準備を進めたりしています。



みんなが来るのを待っているよ!



草一本ありません。

自粛期間中に、夏の太陽と雨でぐんぐん伸びた雑草たちを、先生たちで一生涯懸命きれいにしました。そこで出会った、テントウムシのさなぎや、ツチイナゴの幼虫をクイズ形式で配信したり、お子さんがお家で遊べる教材を配信したり、ホームページにも掲載しました。また、園内の遊びの環境も工夫して、自粛期間が明けたら思い切り楽しく遊べるように、といろいろと考えて設定したり、作ったりして準備を進めています。園児の皆さんは楽しみにしててくださいね!



いろいろな制作材料を準備しました。



うらやまからのつぶやき (園長のつれづれなるままに No.5)

夏のオンライン講演会から学んだこと

12日までの非常事態宣言が、30日まで延びてしまい、これに伴い登園自粛も、30日までお願いすることになりました。保護者の皆様におかれましては、ご協力ありがとうございます。

演題 「脳を知ると見えてくる、幼児期の成長と教育」 講師 池谷裕二氏

講師は、東京大学薬学部教授。専門分野は神経生理学で、脳の健康について研究している。

○子育てが大変なのはなぜか?

それは、「幼児の脳は大人の言うことを聞くようにデザインされていない」から。

遺伝子に組み込まれていない。逆に「親も子どもを育てるようにできていない」し、「子どもは、子どもの言うことを聞くようにできている」

⇒実感として、合点しませんか。私は、「脳科学の観点で、脳の仕組みがそうなっているのだから、気楽に考える。そこを踏まえて、子育て(しつけ)を工夫する必要がある」と解釈。

○「しつけ」には、ほめると叱るがあるが、どちらがよいか?

結果は、ほめる>ほめると叱る>叱る と「ほめる」単独がよい。

そして、成果(結果)ではなく、努力(過程)をほめよ。

- ・成果(結果)……「いい成績だったね」→人と比べる 人のせいにする ようになる
- ・努力(過程)……「よくやったね」→9割以上は難しい問題を選び、熱心に説き続ける 成績が20%向上した

○幼児教育の重要性 (ネズミの迷路学習から)

クローンネズミ チョコレート 1日20回 10日間 14匹 最後は最短経路 最短経路を見つけるまでの日数に個体差

- ・初期にどれだけ失敗したか 後期の失敗より 初期の失敗はプラスに働く
- ・未就学児を初期(幼児教育)と考えれば いろいろな失敗をしよう あれやこれや失敗しよう
- ・じっくり考えて失敗しよう (早とちりは、効果がない)
- ・初期の失敗が学習を促進する答えを推測することに意味がある だから、まちがってもよい 失敗に大切な「熱意(学習意欲)」が生まれる